石巻専修大学
●「石巻専修大学」ホームページ●
http://www.senshu-u.ac.jp/ishinomaki/

代表電話番号
0225（22）7711
広報専用FAX
0225（22）7809

日米友好シンボルの木
ハナミズキの苗20本植樹

▲　植樹式であいさつするゴーグ首席領事

米国政府と日米交流財団による共同事業「友好の木ハナミズキ・イニシアチブ」から本学にハナミズキの苗20本が寄贈され、多目的グラウンドの一画に植樹された。4月25日に植樹式が開催され、坂田隆学長、在札幌米国総領事館のジョエレン・ゴーグ首席領事ら4人の学生が記念植樹を行った。

この事業は、1912年に日本から米国に3000本の桜が寄贈されてから100周年を迎えたことを記念して行われている取り組みで、返礼として、日米友好の象徴として、日本各地に合計3000本のハナミズキが順次贈られている。

今回の寄贈は昨年、本学を会場に行われた「ツール・ド・東北」にキャロライン・ケネディ駐日米国大使が参加したことがきっかけとなり、実現した。

石巻地域では初の寄贈となる。

植樹に参加した学生は▽市村岳哉さん（理工3・宮城県多賀城高）▽遠藤見倫（みのり）さん（経営4・宮城県石巻北高）▽佐藤夏海さん（人間2・石巻西高）▽沼津明日香さん（人間2・宮城県石巻商業高）。

今春誕生・女子競走部 早くも躍動

かすみがうらマラソン10マイル
原田詠麻さん6位

女子競走部の原田詠麻さん（経営1・静岡県静岡北高＝写真）が「第25回かすみがうらマラソン兼国際盲人マラソンかすみがうら大会」（4月19日、茨城県土浦市）の10マイル女子の部で6位に入賞した。今春に活動を開始した同部初の公式大会で、早くも好結果を残した。

かすみがうらマラソンは、霞ケ浦の湖岸を走る日本陸上連盟の公認大会。10マイル（約16・09㎞）女子の部には今回、約1782人がエントリーした。当日は曇り空で、マラソンに適したコンディションとなった。招待選手として出場した原田さんは、スタートから快調にラップを刻み、1時間7分でゴール。期待に応える走りを見せた。

原田さんは「久しぶりのレースだったので緊張もしましたが、楽しんで走ることを意識しました。今後も優勝目指して頑張ります」と語った。

5月10日に行われた「第25回仙台国際ハーフマラソン大会」（杜の都ハーフ）には、原田さんと千葉悠里奈さん（人間1・宮城県常盤木学園高）の2人が出場。女子マラソン日本代表選手らが多数出場するなか、原田さんが13位（1時間19分41秒）、千葉さんが16位（1時間21分50秒）と健闘した。世界で活躍する選手と走り、飛躍のヒントをつかんだようだった。

復興ボランティア学 3年目がスタート

復興を支えるボランティア活動とはどんなものなのか、石巻地域で活躍する団体のリーダーに学ぶ「復興ボランティア学」が4月14日からスタートした。3年目となる今年は「東日本大震災と石巻」「地域づくり」「若者の参加と居場所」の3つのテーマを設定。テーマごとに本学の学生による課題発表をはさみながら展開する。

開講日は毎週火曜日5時限目（16時50分～18時20分）で、7月21日までの全14回。場所は4号館4201教室。学生だけでなく、一般の参加者も自由に聴講できる（聴講無料）。事前申し込みの必要がなく、1回だけの受講も歓迎とあって、聴講者は回を追うごとに増加。「復興の実態がわかる」「講師の人柄にふれボランティア活動が身近に感じられるようになった」と好評だ。

担当の山崎泰央経営学部教授は、学生の発表を盛り込んだ理由を「講座に参加している学生の意識が年を重ねるごとに高くなっている。学生たちの考えを発信する場を設けることで、より深い学びにつなげたい」と語る。

フェイスブック（https://ja-jp.facebook.com/fukkouv）では各回の概要や最新の情報を公開。また、講義の模様はYouTubeにもアップされる（「石巻専修大学復興ボランティア学」で検索）。

講座のまとめとして、7月25日には「復興ボランティア学EXPO 2015」（10時～16時、4・5号館）が開催される。オープンキャンパスと同時開催で、高校生や一般の方も自由に参加できる。

仮設住宅で車両の点検

理工学部機械工学科自動車工学コースで学ぶ4年次生7人と大学院生2人が4月23、24の両日、石巻市内の仮設住宅や住宅避難地域で共同使用されている自動車（一般社団法人・日本カーシェアリング協会提供）の点検を行った＝写真。

2013年から同協会の活動に協力している本学の自動車工学センター（山本憲一センター長）に持ち込まれた車両は65台。学生たちは、山本センター長らの指導を受けながら、タイヤの履き替え（冬用↓夏用）やエンジンオイルの交換を中心に、各部品の点検や消耗品の交換・補充といった作業に取り組んだ。

大学は美味しいフェアに今年も

教授や学生たちが開発に携わった全国各地の大学ブランド食品が堪能できる「第8回大学は美味しい!!フェア」（5月28日～6月2日、東京・新宿高島屋11階催会場）に、経営学部の石原慎士ゼミと李東勲ゼミ、理工学部の鈴木英勝研究室が共同で参加する。

本学からの参加は2年連続で、昨年は石原ゼミが「石巻・飯野川発サバだしラーメン」などを出品し、高評価を得た。

今回は人気の「石巻・飯野川発サバだしラーメン」（810円）に加え、石巻市飯野川地区の郷土料理をアレンジした新商品「ずるびきあんかけパスタ」（810円）をイートインコーナーで提供。また、両商品を物品コーナーでも販売する。学生も参加し、商品の販売やPRに努める。

理工学部食環境学科入学の山本航大さん
「新食品作る技術を身につけたい」

「大学で食品加工や品質保証、商品開発に必要な知識を習得し、新しい商品を作る技術を身につけたい」

今春、理工学部食環境学科に入学し、大学生活をスタートさせた山本航大さん（宮城県水産高＝写真）は、高校時代から地域活性化を目指した商品の開発に取り組んできた。

高校時代は調理研究部に所属。開発した料理などの成果を日本水産学会春季大会の高校生発表の部で発表してきた。

3年時には、宮城県産ホヤのミンチをコロッケの具材に加えた「コロッケバーガー」を開発。「ホヤの利用拡大を通じた専門高校連携による被災地域活性化への取り組み」と題し、成果を報告した。

石巻北高校が生産する米粉を衣に使ってホヤを揚げ、相沢製菓（石巻市）が作る米粉パンで挟んだこの料理は、震災後の販路、利用拡大が課題となっているホヤの活用法として高く評価され、最高賞である金賞を受賞した。

山本さんは「高校で地域の特産品を使った料理を開発した経験を生かしたいと思い、食環境学科を選択しました。父が女川で水産会社を経営しているので、食品の加工や分析と合わせて、流通についても学びたいです」と意欲を語った。

育友会支部懇談会

ご父母・保護者の会である育友会では、大学の近況報告や学生生活の様子を紹介する支部懇談会を開催しています。

今年度の開催地と日程・会場は左表のとおりです。

開催地	開催日	会場
石巻	6月14日（日）	石巻専修大学
	10月10日（土）	＊6月14日は定期総会を同時開催
盛岡	7月5日（日）	マリオス（盛岡地域交流センター）
仙台	7月5日（日）	TKPガーデンシティ仙台勾当台
山形	7月12日（日）	山交ビル
郡山	7月12日（日）	セルフミーティングルーム虎丸
東京	7月26日（日）	TKP銀座カンファレンスセンター
新潟	8月23日（日）	新潟東急イン
九州	8月23日（日）	専修大学玉名高等学校
青森	8月30日（日）	ホテル青森
大崎	8月30日（日）	古川商工会議所
秋田	9月6日（日）	秋田市にぎわい交流館あう
北上	9月6日（日）	北上市文化交流センターさくらホール
福島	9月6日（日）	ホテルサンルートプラザ福島

開放講座

6月4日から

みやぎ県民大学「石巻専修大学開放講座」が6月4日からスタートする（毎週木曜日、全7回）。

今年度の統一テーマは「オリンピック・パラリンピックを知ろう」。「復興オリンピック」をスローガンとする2020年東京五輪・パラ五輪に向け、観戦する楽しみやボランティアとして参加する楽しみを、人間学部の教員と女子競走部の泉田利治監督が講演する。

【テーマ・講師】
▽6月4日「石巻市に聖火台がやって来た」山崎省一教授
▽6月11日「オリンピックとスポーツ科学の発展」山内武巳教授
▽6月18日「オリンピック選手と心理学」永山貴洋助教
▽6月25日「オリンピックとドーピングの歴史」山崎教授
▽7月2日「オリンピックに監督として参加して」泉田利治監督
▽7月9日「オリンピックと音楽芸術」近藤裕子教授
▽7月16日「1964年東京オリンピックをDVDで振り返る」山崎教授

【時間】19時～20時30分
【場所】4101教室
※受講料無料

問事務課学務担当（石巻専修大学開放センター）
☎0225・22・7716　E-mail：kaiho@isenshu-u.ac.jp